

NPO法人もりずむ = 津市

時間をかけて天然乾燥している、もうかる林させた木材は、香り高さ「業」を目指す」と話す。や色つやを特徴付ける樹 藤崎さんはダムの設計脂が十分に残る。樹脂に 携わっていた三十代の含まれるフェノール成分 ころ、仕事先の新潟県でのおかげで腐りにくく、 林業の後継者不足で荒れ耐久性にも優れる。そん 果てた山林を目の当たりな付加価値の高い木材の にした。四十代で妻の出製造・販売に取り組んで 身地である津市内に移住 いるのが、津市垂水のN し、中勢森林組合に転 P.O法人もりずむだ。理 職。海外からの安価な木 事長の藤崎昇さん(五〇)は 材の流入で、国産材の価 「林業で生計を立てにく 格が下落していた時期だ い現状を改善し、『食っ った。

組合の売り上げが増え ても事業収支の赤字が改 善されない林業の現状を 知った。豪州の牛肉が輸 入されても、国内プラン ドの松阪牛は根強く支持 されている事例を引き合 いに、「木材の付加価値 を高めて、低迷した価格



山林所有者から買い取った薪を管理するNPO法人もりずむの会員ら＝津市白山町南家城で（NPO法人もりずむ提供）

えねるぎっしゅ

木材価値高め脱低迷を

水準を取り戻すことが林業再生に必要な」と、二〇一二年、もりずむを立ち上げた。

機械などを用いた七〇〜一〇〇度での人工乾燥は、木材の水分が蒸発する前に、沸点の低い樹脂成分が飛んでしまう。もりずむでは、津市美杉地区の林業従事者から買い取った木材は、倉庫で自然の状態ですぐに乾燥させ、県内の建築業者に販売する。

昨年七月からは同市白山地区で、山林に放置されたままの間伐材や倒木を薪や木工品に加工し、残木の買い取りには地域通貨券「白山もり券」の運用も始めた。地元の山林所有者でつくる白山林業研究会と共同のプロジェクトで、森林所有者の支援と、白山もり券の使い先として地元の温泉施設やスーパーなども巻き込んだ地元振興の一石二鳥を狙った。

発足当時のメンバーは十一人だったが、山林所有者やきこりなども参加し二十人に増えた。今後は当面、プロジェクトのPRと、薪の販路や地域通貨券の利用先の拡大に力を入れていく。

(大島宏一郎)